

認知症の医療連携 —熊本モデルを中心に—

熊本大学大学院生命科学研究部脳機能病態学
池田 学

認知症医療に求められている課題

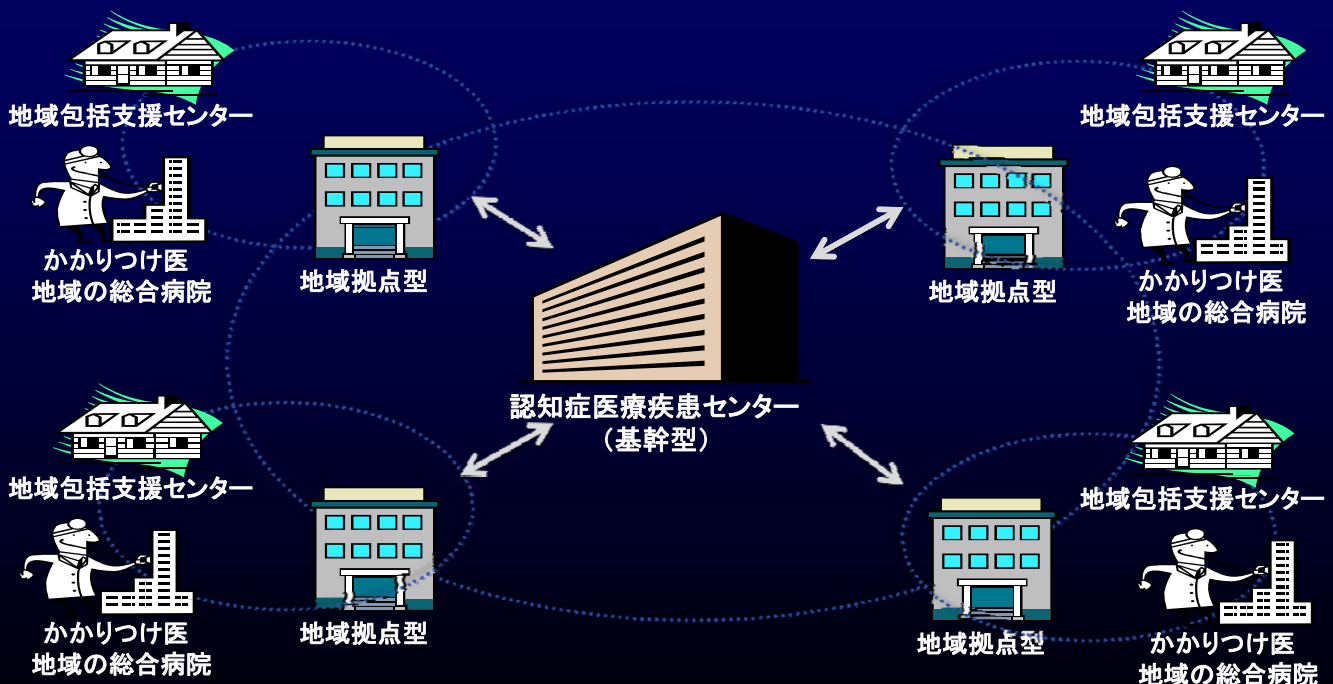
- 正確な早期診断
- 的確な治療・介護計画の立案
- 精神症状や行動障害(BPSD)の治療
- 身体合併症への対応

診療連携のポイント

- 地域密着
- 低コスト
- 迅速性
- 適材適所の役割分担
- 流れが途切れない連携

熊本式認知症疾患医療センターの整備について

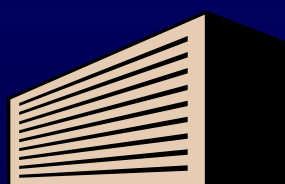
認知症の早期診断や診療体制を充実するために、地域での拠点機能を担う7つの「地域拠点型」と、県全体を統括する「基幹型」(熊本大学附属病院)の2層構造として整備する。



熊本県認知症医療疾患センター設置一覧



認知症疾患医療センターの役割分担について



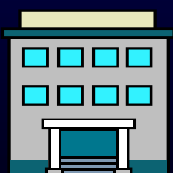
認知症医療疾患センター
(基幹型)

＜基幹型センターの主な役割＞

- ① 専門医療相談
- ② 合併症への対応, **早期診断**
- ③ **人材育成**(研修制度の充実)

専門的支援

連携強化



認知症医療疾患センター
(地域拠点型)

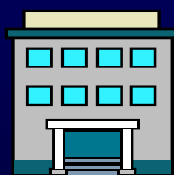
＜地域拠点型センターの主な役割＞

- ① 専門医療相談
- ② 鑑別診断とそれに基づく初期対応(特に**BPSD**)等
- ③ **合併症への対応**
- ④ 認知症医療に関する**地域連携体制の構築**

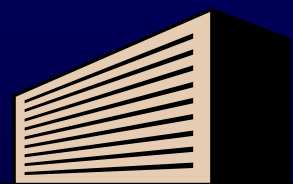
専門医療相談の役割分担について



熊本県
認知症コールセンター

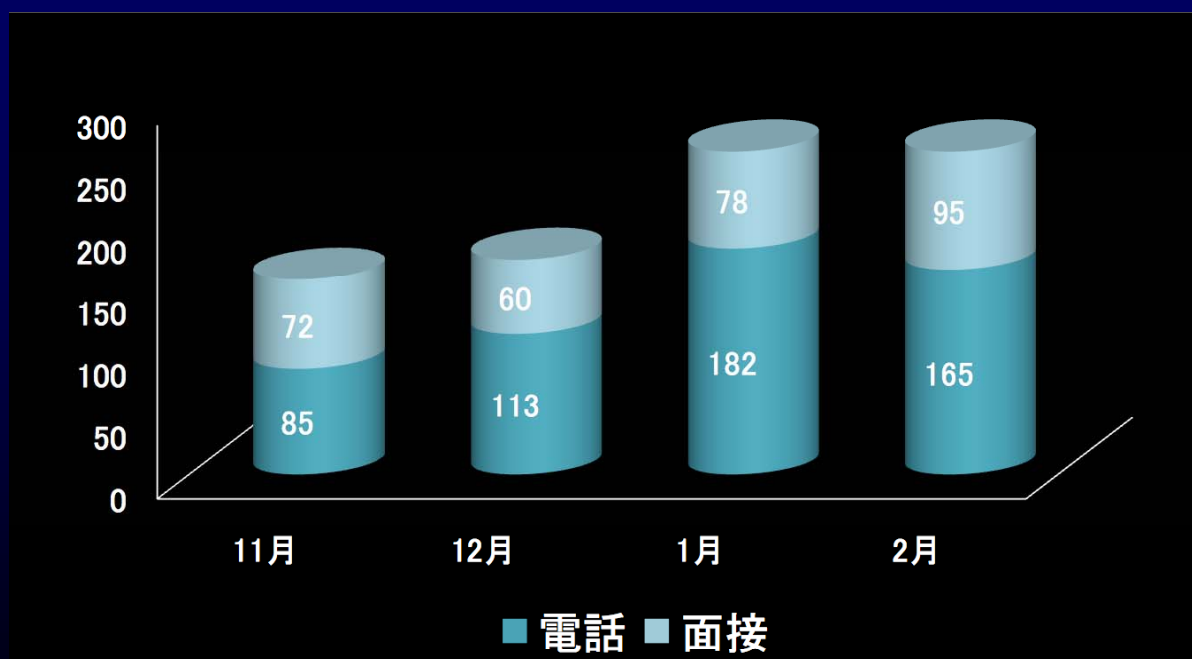


認知症医療疾患センター
(地域拠点型)

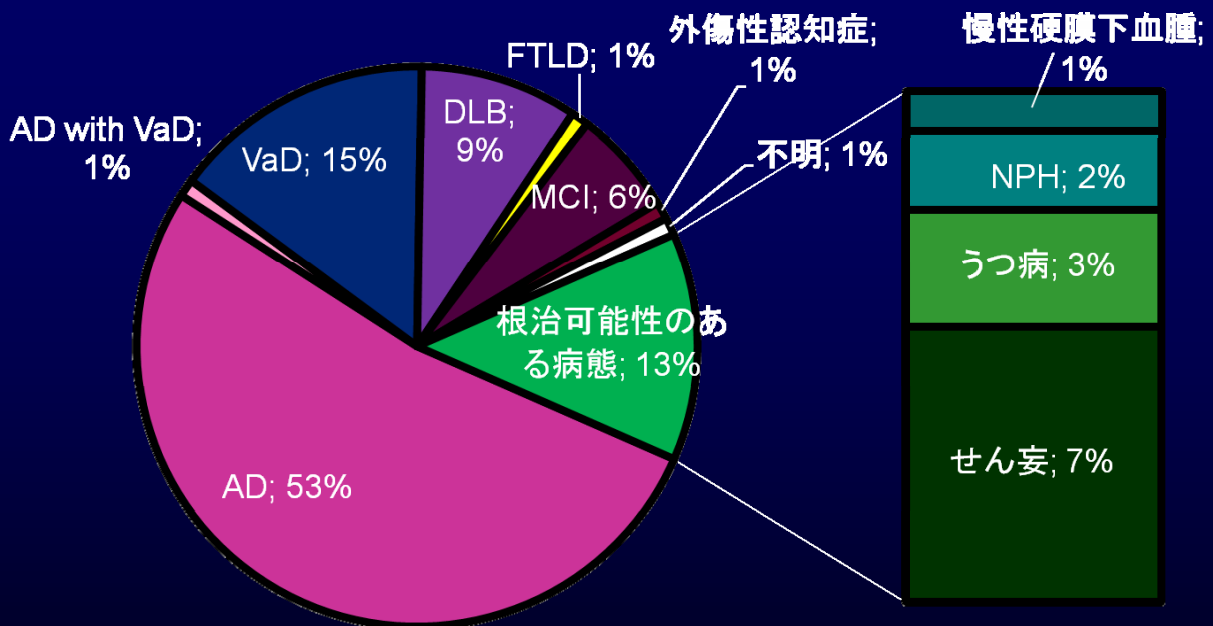
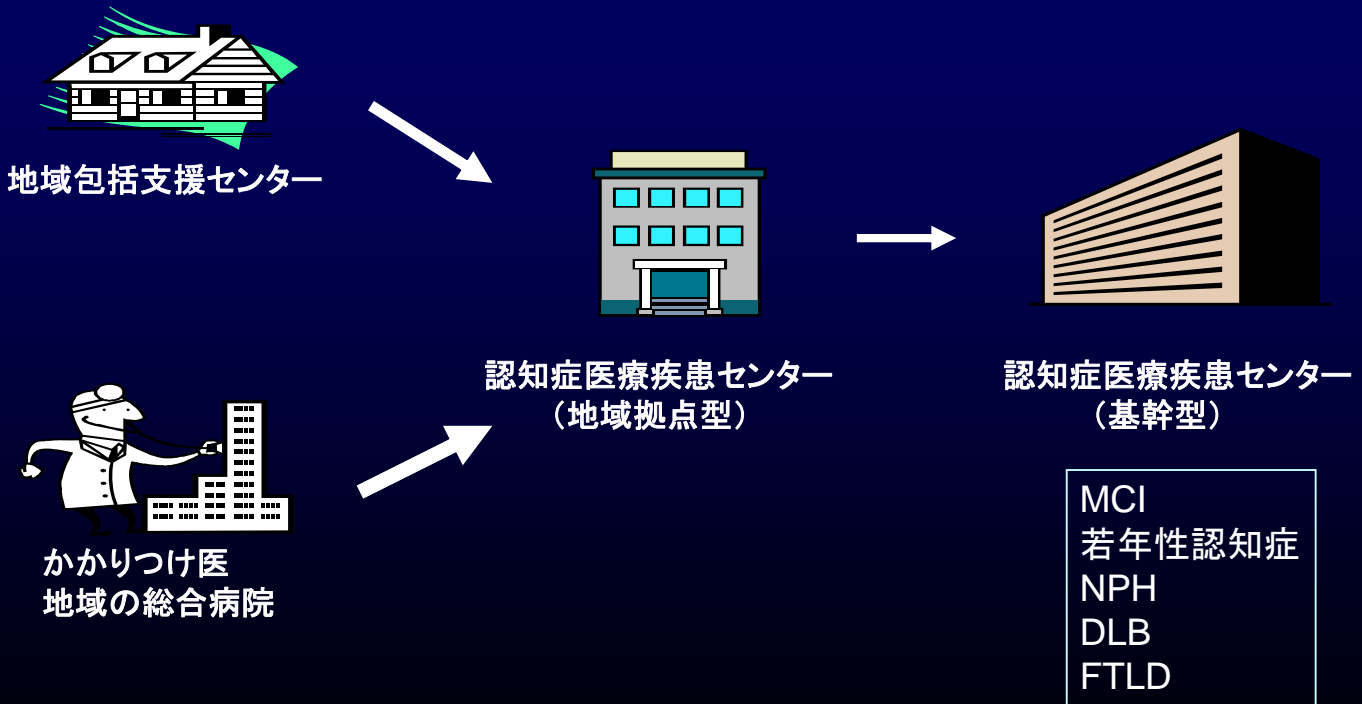


認知症医療疾患センター
(基幹型)

専門医療相談件数

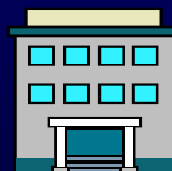


早期診断の役割分担について

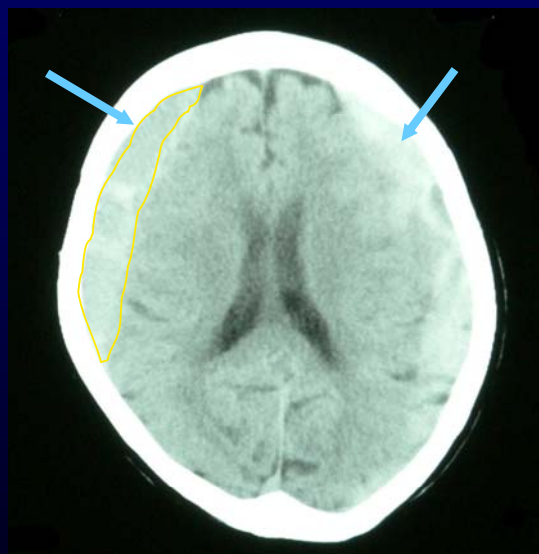


精神科病院専門外来初診連続100例の診断内訳

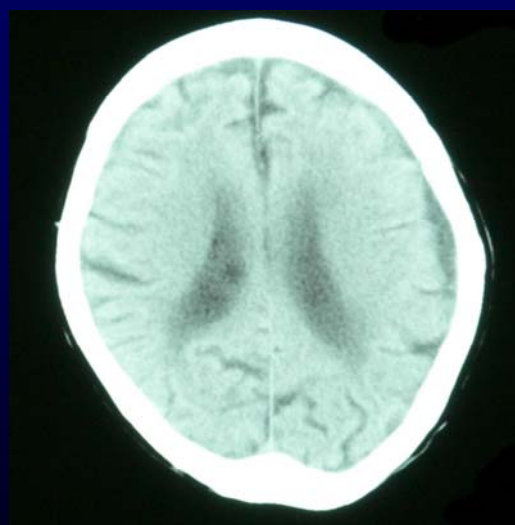
BPSD対応の役割分担について



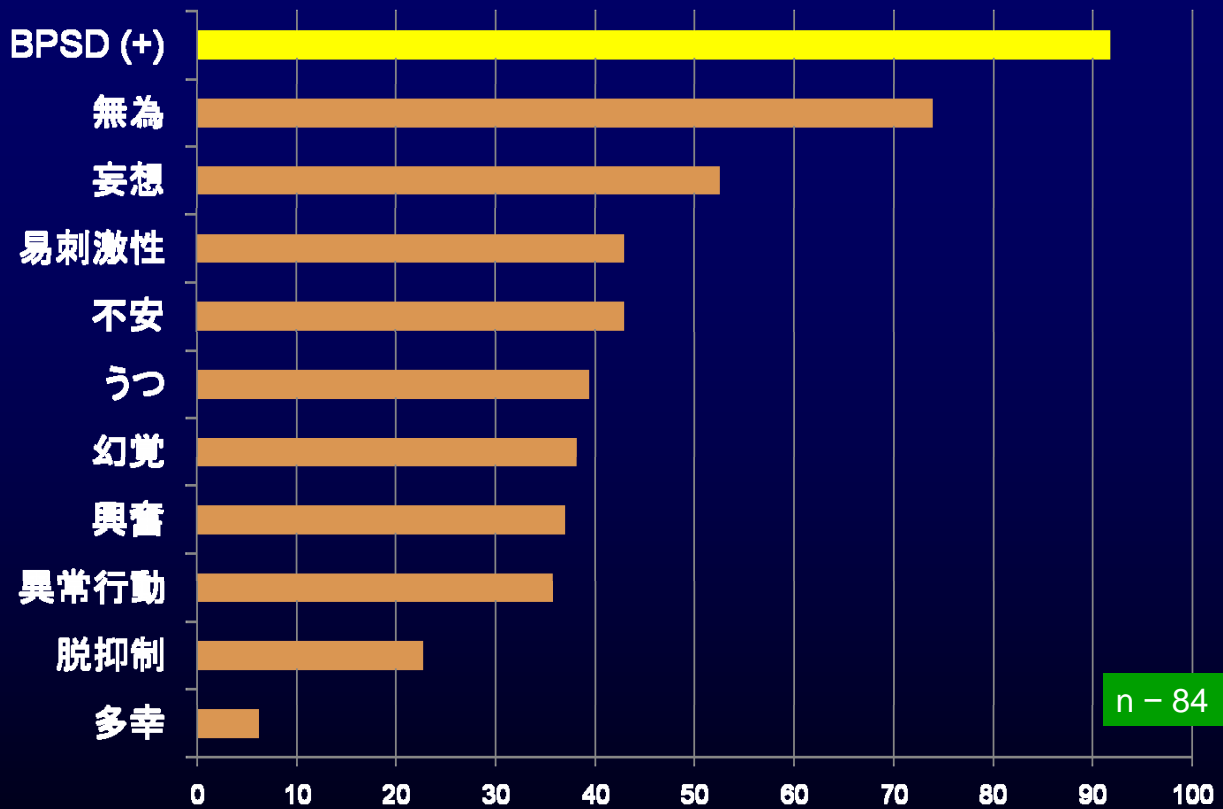
慢性硬膜下血腫



初診時 (MMSE 6/30)



2か月半後 (MMSE 19/30)

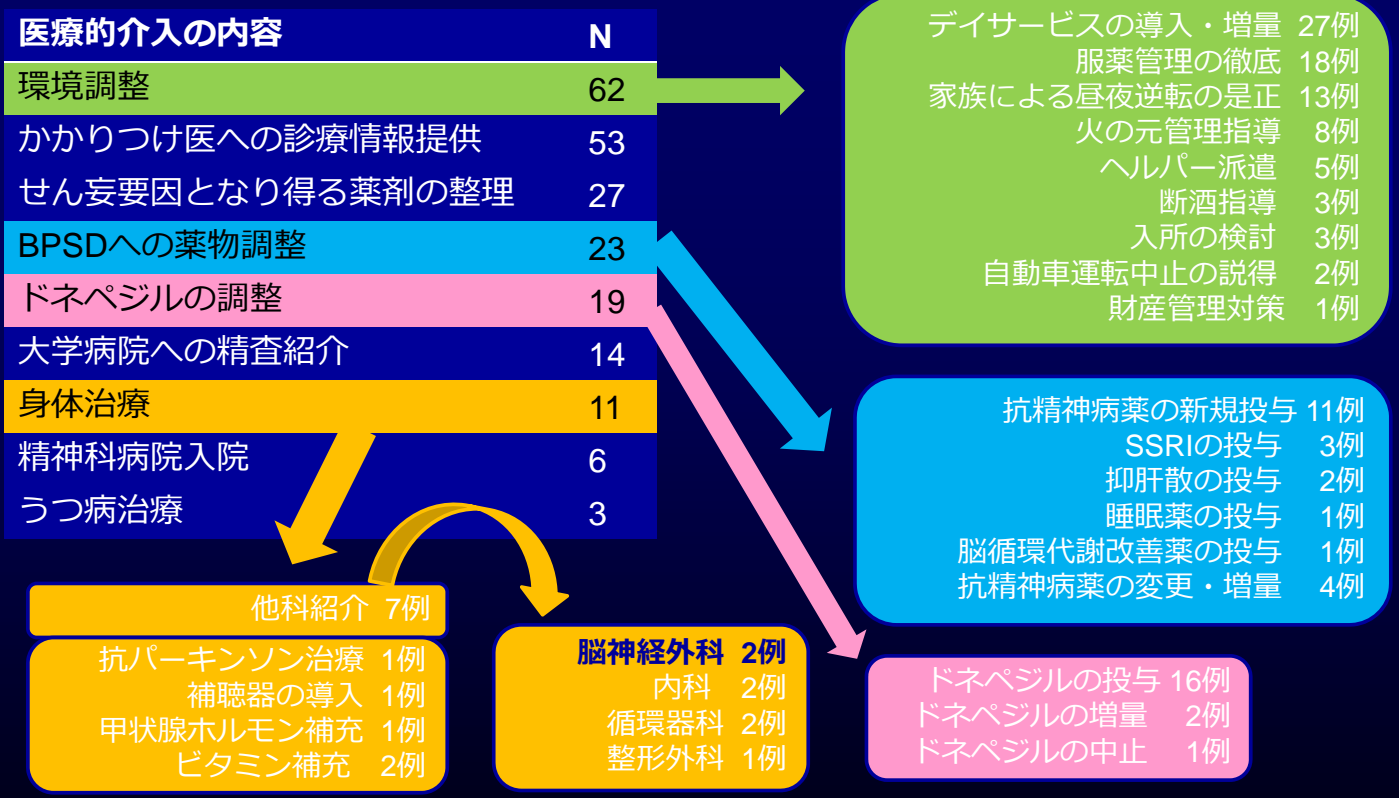


NPIによるBPSD有病率

認知症疾患に係る外来・鑑別・入院件数

	11月	12月	1月	2月
外来件数	2679	2801	2584	2659
鑑別診断	114	90	135	110
入院件数	38	40	38	38

合併症対応の役割分担について



初診3カ月以内に行った医療的介入